



2学期がスタートしました

2学期始業式 校長講話より

2学期がスタートしました。まず、皆さんと元気でこの始業式を迎えることができたことを大変うれしく思います。新型コロナウイルス感染症も3年目を迎えましたが、7月後半から8月にかけて新規陽性者数は今まで以上に増加してきました。長野県全体でも「医療非常事態宣言」が発出され、県独自の感染警戒レベルも「6」となっています。しかし、若年層は重症化しない等のオミクロン株の特性を踏まえて、文部科学省や長野県教育委員会からの指示についてもその内容が「感染対策を十分取った上で、学びを止めない」という方向により強く変わってきています。青木中学校でも、こまゆみ祭に向けた準備や新人戦に向けた部活動については、今までと同様に感染防止対策を行った上で、中止などとはせずに行っていきます。但し、感染警戒レベルが「6」ですので、校舎内におけるマスクは布やウレタンではなく、「不織布」のマスクの着用をお願いします。一方で、まだまだ暑い日が続くことが考えられます。登下校や屋外で隣や周りの人と十分に距離がとれる場合には、マスクよりも熱中症予防に心がけてください。私が言うことはいつも繰り返しになってしまいますが、この感染症については、正しく恐れることが大切だと感じています。たとえ十分注意していたとしても、誰もがかかる可能性がある病気ですから、「お大事に」「早くよくなってね」という一昨年から取り組んできている、シトラスリボン運動の思いやりの心を大切にしていきましょう。そして、今まで同様に換気について徹底することや手指消毒、毎日の健康チェック、少しでも調子が悪いときには無理せず「勇気をもって休む」ことを継続していきましょう。

今日は、もう一つ、義民太鼓について少しだけお話をします。7月から3年生の希望者を中心に練習を行っている義民太鼓ですが、指導者の宮入さんから『義民の心』についてぜひ、中学生に自分で調べるなどして学んでほしい。そのことがわかればきっと太鼓ももっと変わってくるはずですよ」と言われました。

江戸時代に青木村から起こった百姓一揆は5回ありました。「夕立と騒動は青木村から来る」という言葉が上田に近い村人の間で語られるほど、同じところから5回も百姓一揆の指導者を輩出していることは全国的にも大変珍しいことです。長野県だけではなく、全国的にも大変珍しいと言われるその理由、みなさんはどう考えますか？

「百姓一揆」とは、「江戸時代、農民が領主・代官の悪政や過重な年貢に対して集団で反抗した運動のこと」です。また、「義民」は一般的には、「主に江戸時代、村などの共同体の代表として年貢の重圧による生活の困窮を領主、幕府に直訴(越訴)した人物のことです。私財や生命を賭して民衆のため一身を捧げた人のことです。」

さてみなさんは、室町時代や江戸時代、当時の農民は、年貢が重かったり、領主の政治が悪いために生活がとても苦しくなったりしたら、農民はみな「こうなったら一揆だ」「一揆しかない」といつて団結して反抗したと考えますか。歴史の教科書にもあるように、江戸時代後半には、百姓一揆の数が全国的にも大変増えています。しかし、百姓一揆では、たとえその要求が認められたとしても、一揆の首謀者は「死罪」になるというきまりでした。つまり、一揆を計画した時点で、中心となった人物は、一揆が成功したとしても騒動を起こしたという責任をとって自らの命と引き換えなければならなかったのです。決して、簡単に「百姓一揆」を計画、実行したわけではないのです。

ですから、1つの小さな村から5回も始まったということは、全国的にも大変珍しいことなのです。青木村からはじまった5回の百姓一揆ですが、一揆の願いが通った場合を含め、その首謀者はみな、処刑されてしまっています。自らの死は覚悟の上で、正義を正し、圧政を払いのけて、地域の農民を守ろうとして藩主に直訴し、処刑された先人は、「義民」として各地区で祀られ、供養されてきました。

青木村では、最初の一揆で直訴した庄屋の増田与兵衛の事件からちょうど 300 年にあたる昭和 57(1982)年に「義民祭」が開催され、義民の功績を後世に伝えるために「義民太鼓」がつくられました。そして、青木中学校では、それからわずか2年後の昭和 59(1984)年、今から 38 年前から文化祭で「義民太鼓」が演奏され、その後コロナ禍でも途絶えることなく、脈々と続く伝統となっています。今年の義民太鼓も今から大変楽しみにしています。

改めて皆さんで、「義民」のことについて調べ、「義民の心」について考え、「義民太鼓」を通して感じてほしいと願っています。

2学期は、今日のようなとても暑い中ではじまって、雪が降って寒い時期まで続く1年で一番長い学期です。文化祭や部活動の新人戦、生徒会の引き継ぎなど中学生の皆さんが1年間で一番成長する学期でもあります。

ともに学ぶ青木中の仲間を尊重し合って、充実した2学期となることを願っています。

◆◆◆◆9月の予定◆◆◆◆

1日(木)避難訓練②

1日(木)～21日(水)みんなで歌おうラララ旬間

8日(木)～16日(金)清掃強化旬間

7日(水)教育課程研究協議会のため休み

21日(水)こまゆみ祭前日準備

22日(木)こまゆみ祭①(弁当持参)

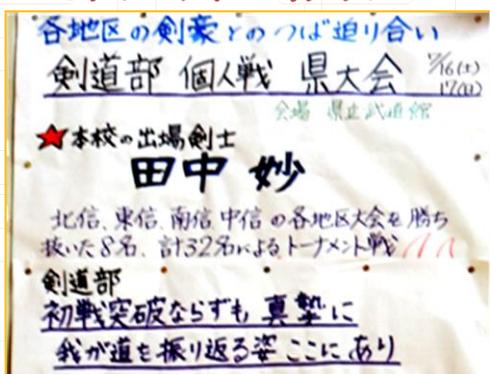
23日(金)こまゆみ祭②(午前のみ)

28日(水)地区生徒会

29日(木)30日(金)2学期中間テスト・3年総合テスト②

吹奏楽コンクールの報告

県大会の報告



～田中さんより～

県大会という舞台に立てたのはコーチ、先生、仲間、支えてくださった方々のおかげです。負けてから思った事はやっぱり「もっと練習しておけば・・・」という後悔です。これからが辛くて苦しくなってくると思います。言わせてください。「逃げないでください。楽をしないでください。全然簡単なことではないですが、後で後悔するくらいなら今、頑張ればいい。日々の練習を大切に、仲間と支え合い頑張ってください。ありがとうございました。」

夏休みの姿から②

夏のゴテラ(自主学習の様子)

今年も夏休みに「夏のゴテラ」が6回行われました。自主的に参加し、学習していました。参加者は1年生から3年生まででしたが、それぞれに夏休みの課題をもってきて取り組んだり、総合テストに向けて集中して勉強していたりする姿はすてきなと思いました。地域のボランティアの方も来てくれました。感謝です。

2学期からは、水曜日放課後の自主ゴテラもスタートします。積極的に活用しましょう。



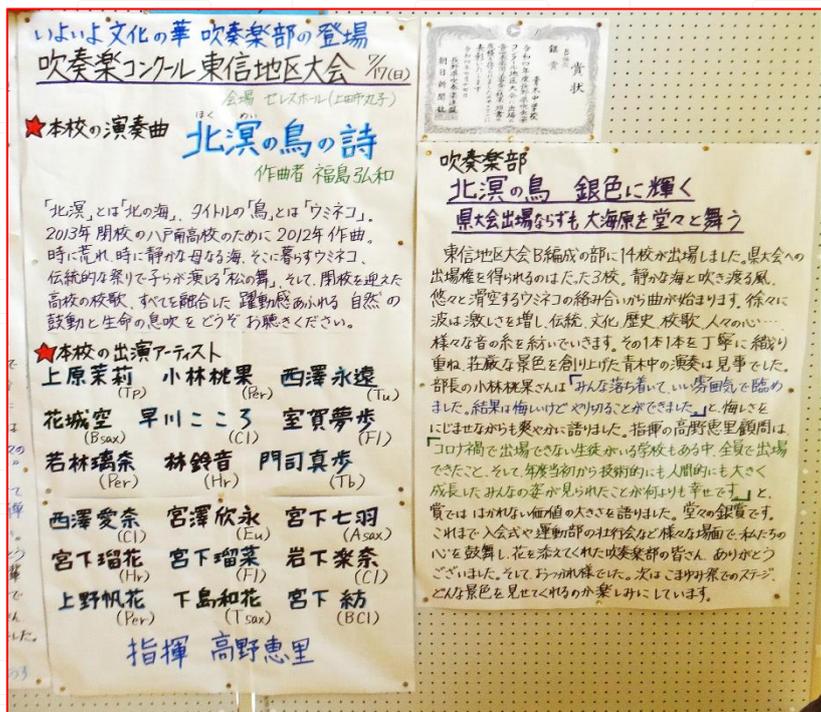
★職員研修から★

1学期末、生徒のみなさんに協力してもらった授業アンケートの結果をもとに、夏休みに、「2学期生徒と共に授業を楽しむためにはこんなことをしたい！！」研修という授業改善に向けた職員研修会をしました。研修会やアンケートから2学期職員の重点課題をきめました。「生徒が主役！安心して失敗できる学校・集団づくり」「生徒のいいところみつけた！」「常に自分の授業をアップデート！生徒と一緒にワクワクする授業をつくろう」この3つをいつも意識していきます。

非違行為防止研修〔職員研修〕

職員による非違行為防止に向け、計画的に職員研修会を行っています。一学期の職員研修では、次の内容で研修を行いました。今後も、職員の非違行為防止に努めてまいります。

- 4月 万が一事故を起こしてしまったときの対応について・非違行為をしないことの誓い
- 5月 非違行為防止は健全な精神から！～ストレスマネジメント:個人として集団としてなにができるか～
- 6月① アンガーマネジメント！自分の捉え方・考え方のクセを知り、対応に生かすために。
- 6月② 体罰/熱中症について ～竹田高校剣道部熱中症死亡事件を考える～
- 8月 非違行為をしないことの誓い②～穂刈先生の雑誌「信濃教育」掲載予定のコラムから考える～



夏休みの姿から①

サイエンスアカデミー-HOKARI

8/18の信濃毎日新聞にも掲載されましたが、3年生に有志5名が、夏休みの間集まって「光触媒」について実験し、まとめました。今年はコロナ禍での善光寺のご開帳があり、そこで生かされた光触媒の技術はとても興味深く、調べ実験する姿はさすが3年生！！と感じさせるものでした。



夏休みの姿から③

夏休みには他にも生徒会活動や、部活動など積極的に取り組む姿が見られました。

緑化委員会が育ててくれている緑のカーテンもその1つです。各教室の窓から眺めるとかわいい朝顔が涼しげです。



小中合同学校保健委員会 (8月22日)

学校医の先生や薬剤師さん、PTA役員さんをお誘いし、小中合同の学校保健委員会を行いました。「眠りで未来が変わる！睡眠を見直そう！」ということで講師に東洋羽毛北信越販売株式会社の伊東 和博さんに講演いただきました。中学生の時期は1日の睡眠時間が8～10時間必要であること。睡眠を利用して「健康」「学力」「いろいろな技能」UPを目指そうという話を聞きました。睡眠の大切さがよくわかる研修でした。